

# 野鳥だより

—北海道—

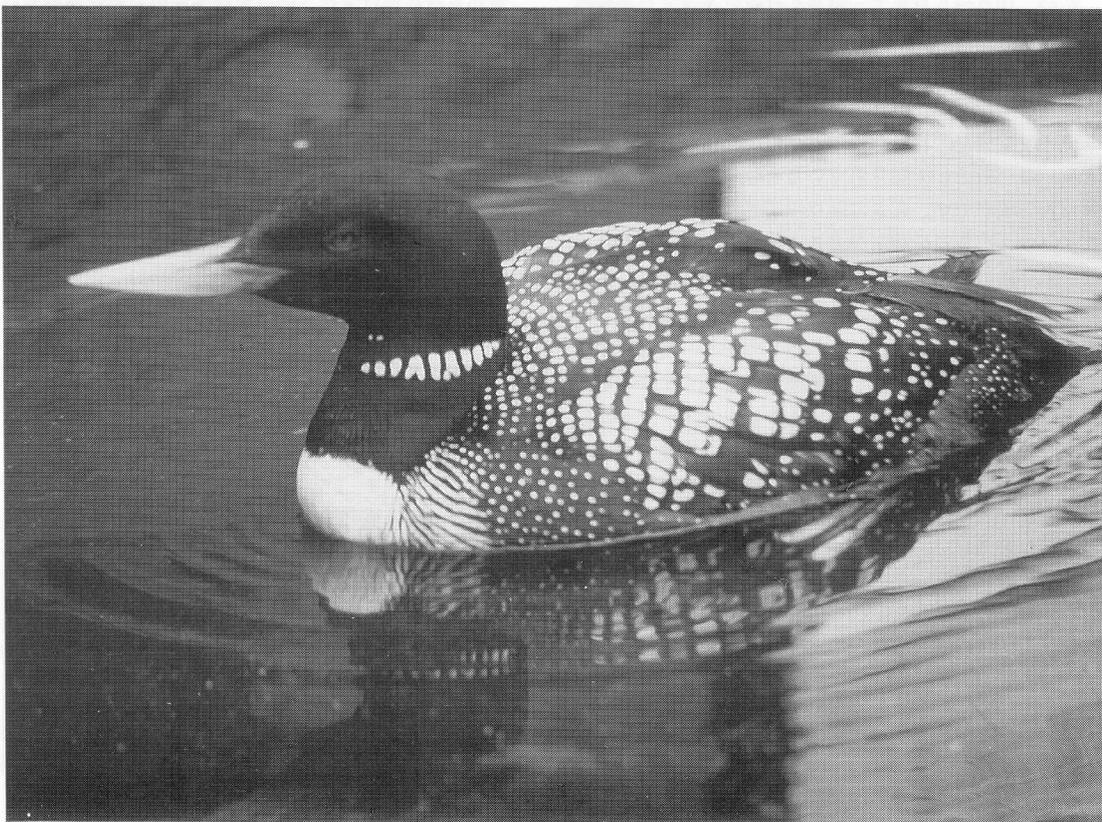
ISSN 1910-2396

第 99 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成7年3月21日

ハシビロアビ（夏羽）



1993.6 白老漁港で保護 撮影者 本多 進



# もくじ

私の探鳥地 (29) .....	若林信男.....	2
支笏湖班国民休暇村周辺1994年4月の探鳥記録.....	柳澤信雄.....	3
狩猟鳥獣の種類について.....		7
円山公園周辺野鳥目録.....	山田 甚一.....	8
探鳥会報告.....		9
探鳥会案内.....		11
鳥民だより.....		12

## 一岩見沢公園・市民の森一

### 私の探鳥地 (29)

若林信男

私が、10月～5月まで一番多くウォッチングへ出掛けられる場所は、岩見沢公園です。あまり場所は知られていないが、ゆっくり歩いて約1時間の道程である。(往復約1km)。冬期間は、除雪がされているので長靴でも歩くスキーでも良く(岩見沢市民と近郊市町村の人達に歩くスキーコースとして知られている)、冬でも気軽に出掛けられる場所です。大きな駐車場があり、暖房のきいたログハウスの無料休憩所がある(昼食に便利)。トイレは、すぐ隣の緑のセンター内を利用。午前中なら、多くのカラ類が迎えてくれるだろう。また、カラ類に交じってキクイタダキも迎え出てくれるでしょう。岩見沢公園で観察されている種類は、87種類で種類ごとの羽数は多くはないが、ゆっくり、じっくり、ウォッチングが出来る。この時期観察出来る種類としては、常連のハシブトガラ・シジュウカラ・ゴジュウカラ・ヤマガラ・シマエナガ・キツキ全種類・キバシリ・ハイタカ・オオタカ・オオワシ・オジロワシと珍しい種類はいないが、ゆっくり落ち着いて、ウォッチングを楽しめる場所です。また、チャンスに恵まれると、クマゲラ(特に♀)を観察できるのと、クマタカ(1994年2月・3月)を観察できるかもしれない。また、岩見沢公園では、キクイタダキが目前で多く観察できるので天候の良い日には、キクイタダキだけで盛り上がることだろう。

(カラ類・キツキ類の他に観察できる仲間たち)

ウソ・キレンジャク・ヒレンジャク・アトリ・イスカ・ギンザンマシコ・ベニヒワ・マヒワ・ハギマシコ・エゾライチョウ・コウライキジ・エゾフクロウ等その他大勢の役者たち。

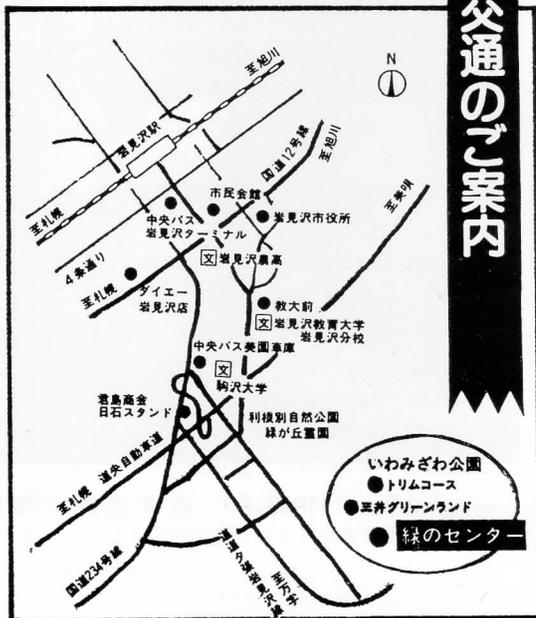
\*\*\*注意\*\*\*

岩見沢公園での徒歩でのバードウォッチングは、冬期間は往復するだけの一本道です。

春から秋にかけては、山の斜面を利用した自然観察路があります。

冬期間、バスの便が少なく、午前中一便と交通が非常に不便です。良く調べて来てください。自家用車の方が便利かと思います。

〒068 岩見沢市美園1条2丁目31



# 支笏湖畔国民休暇村周辺1994年4月の探鳥記録

会長 柳澤 信雄

## 《はじめに》

1994年、支笏湖畔国民休暇村では4月の一ヶ月間をバードウォッチング月間にしたので、北海道野鳥愛護会にボランティアガイドとして協力願えないかと相談があった。

幹事会で了承を得、協力いただける会員に呼びかけて、どうにか一ヶ月間欠かさず協力できる態勢ができた。

一日3回、7時・13時・16時30分から各々約一時間のバードウォッチングと夕食後19時から約一時間のスライド上映会が主な活動内容だ。その他の時間は自由に過ごせる楽しみがある。

折角の機会なので記録を残すことにした。こうして、会員のボランティアと休暇村が協力して、1994年4月の支笏湖畔国民休暇村周辺の野鳥観察記録をまとめることが出来たので報告する。

## 《記録の整理について》

休暇村は「野鳥の森」に続いており、バードウォッチングを目的に休暇村を訪れる客が年々ふえてきている。

また、支笏湖周辺の野鳥観察記録も整理されているが、支笏湖周辺では相当に広い範囲となり、休暇村を拠点に短時間のバードウォッチングの資料としては余り役立たない。

そこで私は先に、1992年4月から1994年3月までの支笏湖畔国民休暇村周辺の野鳥観察記録を月別に整理し、今までにあった支笏湖周辺の記録とを並べて一つの表にしてみた。

今回はこの表に若干手を加え、支笏湖畔国民休暇村周辺4月の野鳥観察に役立つ表に工夫してみた。

## 《この表から分ったこと》

当然のことであるが、支笏湖周辺と支笏湖畔国民休暇村周辺では、観察できる野鳥の種数に大きな差がある。

前2年と1994年の4月を較べて、次のようなことに気がついた。

○4月の観察種数は55種と同じであった。

○夏鳥や冬鳥の移動が、その年により大きな幅が見られる。

—あらたに見られた種—

カイツブリ、オオハクチョウ、ヒドリガモ、ハイタカ、イソシギ、ヤマゲラ、アカゲラ、キセキレイ、ノビタキ、アカハラ、シロハラ、アオジ、クロジ

—前年見られて、見られなかった種—

アオサギ、ハチクマ、オジロワシ、セグロカモメ、カッ

コウ、ツツドリ、カワセミ、コルリ、センダイムシクイ、キクイタダキ、オオルリ、キバシリ、カシラダカ と26種の幅があった。

## 《おわりに》

今回、バードウォッチング・ボランティアリーダーとして延べ34名の方々の協力を得、バードウォッチング参加者は185名、スライド上映会参加者169名であった。

本州からの休暇村利用者のなかには、バードウォッチングを楽しみに毎年くる客も出ている。また、苫小牧、千歳、札幌と道内の利用者もまた、バードウォッチングを目的に来る客が徐々に増えており、休暇村周辺は探鳥地として定着しつつある。

この資料が休暇村周辺のバードウォッチングに少しでも役立てば幸いである。

最後にご協力いただいた方々の芳名を記してお礼にかえます。(敬称略)

伊東裕二(江別市)  
木村与吉(千歳市)  
佐藤正秀(苫小牧市)  
佐藤幸典(岩見沢市)  
住友順子(札幌市)  
牧野洋子(札幌市)  
与那覇モト子(石狩町)

以上



ゴジュウカラ  
国民休暇村のパンフレットより

<記録表の説明>

A. 支笏湖周辺鳥類目録（日本野鳥の会・道央支部、他資料より）

－「支笏湖」の美しい自然公園4、発行・（財）自然公園美化管理財団－

B. 支笏湖の野鳥観察記録

－これまでの観察結果の報告－富川 徹

「かばっ・ちえぶ」第4号 支笏湖の水とチップの会  
1992年発行。

C. 名古屋バードウォッチング・ツアーの記録。

C1 夏（6月） C2 冬（3月） 1991年～1993年。

D. 1992年4月から1994年3月までの支笏湖畔国民休暇村周辺（別図）の観察記録。

E1、上記（D）観察期間の4月観察記録。

E2、1994年4月、バードウォッチング・ボランティアリーダーたちによる観察記録

※D、E1、E2は柳澤が記録を整理した

## 支笏湖周辺と休暇村周辺の鳥類記録表

	支笏湖周辺				休暇村周辺					支笏湖周辺				休暇村周辺			
	A	B	C1	C2	D	E1	E2	備考		A	B	C1	C2	D	E1	E2	備考
<b>カイツブリ科</b>									<b>チドリ科</b>								
カイツブリ	■				○		○		イカルチドリ	■							
ハジロカイツブリ					○				<b>シギ科</b>								
アカエリカイツブリ	■								キアシシギ	■							
<b>サギ科</b>									イソシギ	■	■			○	○	4/23	
アオサギ	■	■	■		○	○			ヤマシギ	■							
<b>ガンカモ科</b>									オオヅシギ	■							
マガン	■								アオシギ	■							
オオハクチョウ	■				○		○		<b>ヒレアシシギ科</b>								
オンドリ	■				○	○	○		アカエリヒレアシシギ	■							
マガモ	■	■	■		○	○	○		<b>カモメ科</b>								
カルガモ			■						セグロカモメ					○	○		
コガモ	■				○	○	○		カモメ	■							
ヒドリガモ					○		○		ウミネコ	■				○			
ホシハジロ				■					ミツユビカモメ	■							
キンクロハジロ	■	■	■		○	○	○		シロカモメ	■							
スズガモ	■				○				<b>ハト科</b>								
ホオゾロガモ	■								キジバト	■	■	■		○	○	○	4/7
ミコアイサ	■								アオバト	■	■	■		○			
カワアイサ	■								<b>ホトトギス科</b>								
<b>ワシタカ科</b>									ジュウイチ	■							
ミサゴ	■								カッコウ	■				○	○		
ハチクマ					○	○			ツツドリ	■	■	■		○	○		
トビ	■	■	■	■	○	○	○		<b>フクロウ科</b>								
オジロワシ	■				○	○			シロフクロウ	■							
オオワシ	■								コノハズク	■				○			
オオタカ	■	■			○				オオコノハズク	■				○			
ツミ	■								アオバズク	■				○			
ハイタカ	■	■			○		○		フクロウ	■	■						
ノスリ	■	■	■		○	○	○		<b>ヨタカ科</b>								
クマタカ	■								ヨタカ	■							
<b>ハヤブサ科</b>									<b>アマツバメ科</b>								
ハヤブサ	■				○				ハリオアマツバメ	■	■			○			
<b>ライチョウ科</b>									アマツバメ	■	■	■		○			
エゾライチョウ	■	■			○				<b>カワセミ科</b>								
<b>キジ科</b>									ヤマセミ	■	■	■		○	○	○	
コウライキジ	■								アカショウビン	■	■			○			

	支笏湖周辺				休暇村周辺					支笏湖周辺				休暇村周辺			
	A	B	C1	C2	D	E1	E2	備考		A	B	C1	C2	D	E1	E2	備考
カワセミ	■	■			○	○			キクイタダキ	■	■	■		○	○		
キツツキ科									キビタキ	■	■	■		○			
ヤマゲラ	■	■	■	■	○		○		オオルリ	■	■	■		○	○		
クマゲラ	■	■	■	■	○				サメビタキ	■				○			
アカゲラ	■	■	■	■	○		○		エゾビタキ	■							
オオアカゲラ	■	■	■	■	○	○	○		コサメビタキ	■	■	■		○			
コゲラ	■	■	■	■	○	○	○		エナガ科								
ヒバリ科									エナガ	■	■	■		○	○	○	
ヒバリ	■								シジュウカラ科								
ツバメ科									ハシブトガラ	■	■	■	■	○	○	○	
イワツバメ	■	■	■	■	○	○	○	4/16	コガラ	■		■	■				
セキレイ科									ヒガラ	■	■	■	■	○	○	○	
キセキレイ	■	■	■		○		○	4/13	ヤマガラ	■	■	■	■	○	○	○	
ハクセキレイ	■	■	■	■	○	○	○	4/1(3月 末飛来?)	シジュウカラ	■	■	■	■	○	○	○	
セグロセキレイ	■	■	■		○				ゴジュウカラ科								
ビンズイ	■	■	■		○	○	○	4/26	ゴジュウカラ	■	■	■	■	○	○	○	
ヒヨドリ科									キバシリ科								
ヒヨドリ	■	■	■	■	○	○	○		キバシリ	■	■	■	■	○	○		
モズ科									メジロ科								
モズ	■	■			○	○	○	4/21	メジロ					○			
アカモズ	■								ホオジロ科								
オオモズ	■								ホオジロ	■	■	■	■	○	○	○	4/16
レンジャク科									カシラダカ	■				○	○		
キレンジャク	■		■						シマアオジ	■							
ヒレンジャク	■		■						アオジ	■				○	○	4/18	
カワガラス科									クロジ	■				○	○	4/26	
カワガラス	■	■							オオジュリン	■							
ミソサザイ科									アトリ科								
ミソサザイ	■	■			○	○	○		アトリ	■		■		○	○	○	
イワヒバリ科									カワラヒワ	■	■	■	■	○	○	○	4/4
ヤマヒバリ					○				マヒワ	■	■			○	○	○	
ヒタキ科									ベニヒワ	■							
コマドリ			■		○	○	○	4/30	コベニヒワ	■							
ノゴマ		■	■						ハギマシコ	■							
コルリ	■	■	■		○	○			ベニマシコ	■	■			○	○	○	4/20
ルリビタキ	■	■			○	○	○	4/23	ウソ	■				○	○	○	
ノビタキ	■						○	4/19	コイカル	■	■	■	■				
イソヒヨドリ	■								イカル	■	■	■		○	○	○	4/13
トラツグミ	■	■			○	○	○	4/27	シメ	■	■	■		○	○	○	4/6
クロツグミ	■	■	■		○	○	○	4/21	ハタオリドリ科								
アカハラ	■	■	■		○		○	4/18	ニュウナイスズメ	■	■	■	■	○	○	○	4/21
シロハラ	■				○		○	4/29	スズメ	■	■	■	■	○	○	○	
ツグミ	■		■		○	○	○		ムクドリ科								
ヤブサメ	■	■	■		○	○	○	4/21	コムクドリ	■	■	■					
ウグイス	■	■	■		○	○	○	4/16	ムクドリ	■		■	■	○			
エゾセンニュウ	■	■	■		○				カラス科								
コヨシキリ	■								カケス	■	■	■	■	○	○	○	
オオヨシキリ	■								ホンガラス	■							
メボソムシクイ					○				ハシボソガラス	■	■	■	■	○	○	○	
エゾムシクイ	■	■	■						ハシブトガラス	■	■	■	■	○	○	○	
センダイムシクイ	■	■	■		○	○											

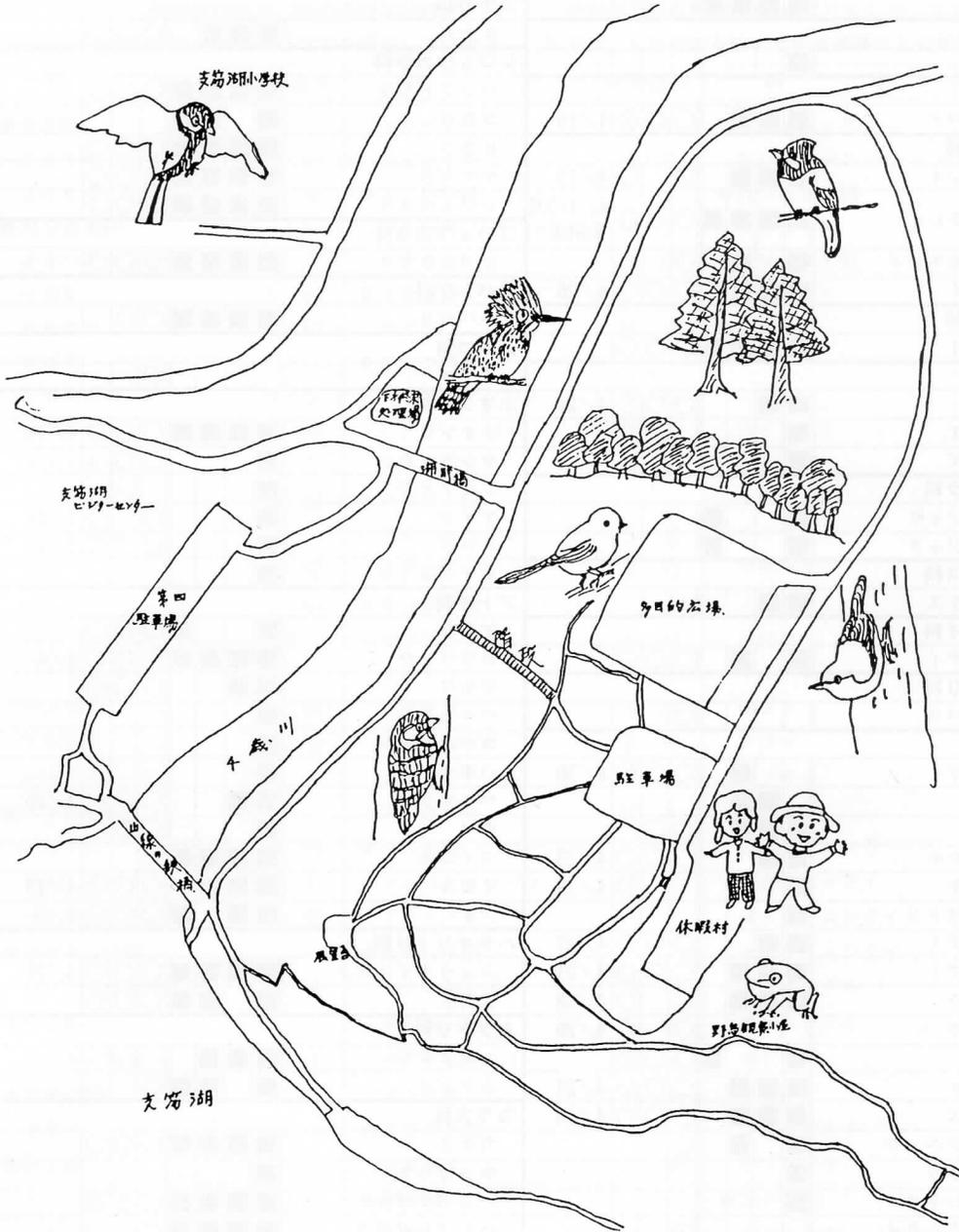
# <バードウォッチングマップ>

支笏湖畔国民休暇村周辺の範囲は、マップのようにおさえました。

休暇村～野鳥観察小屋～展望台～段階～湖畔橋～多目的広場～休暇村。

この範囲のなかを、その日の天候や、参加者の体力、関心度、野鳥の出現状況によって調整している。

支笏湖畔国民休暇村周辺バードウォッチングマップ（1994年4月）



見たい鳥、見れる時間にあわせて、コースをえらびましょう。

## 狩猟鳥獣の種類について

(平成6年10月1日以降)

平成6年10月1日以降の「狩猟鳥獣の種類」は別表(a)である。

それ以前の定めと相異するところを略記すると、鳥類では、ビロードキンクロ、コオリガモとウミアイサの三種が削除されたが、新たにヒヨドリとムクドリが加えら

れていること。

獣類をみますと、リスとムササビが除かれたが、アライグマ、ミンクとハクシビンの三種を加えている。

また、オスジカがシカになっている。(b)表も併せてご参照。

◆情報としてタイミングを逸しているかも知れませんが、今後のための資料としてお読みとり下さい。(広報)

資料提供：道自然保護課鳥獣保護係

(a)

狩 猟 鳥 獣 の 種 類	狩 猟 の で き る 期 間	
	北 海 道 以 外	北 海 道
ゴイサギ, マガモ, カルガモ, コガモ, ヨシガモ, ヒドリガモ, オナガガモ, ハシビロガモ, ホシハジロ, キンクロハジロ, スズガモ, クロガモ, エゾライチョウ, ウズラ, コジュケイ, ヤマドリ(コシジロヤマドリを除く), キジ, コウライキジ, バン, ヤマシギ(アマミヤマシギを除く), タシギ, キジバト, ヒヨドリ, ニュウナイスズメ, スズメ, ムクドリ, ミヤマガラス, ハシボソガラス, ハシブトガラス, ノウサギ, タイワンリス, シマリス, クマ, ヒグマ, アライグマ, ミンク, ハクシビン, イノシシ(イノブタを含む), ニートリア, ノイヌ, ノネコ	狩猟のできる期間北海道以外11月15日から翌年2月15日まで 青森, 秋田, 山形3県内の狩猟鳥に指定されているカモ類においては11月1日から翌年1月31日まで(放鳥獣猟区においては, 11月15日から翌年3月15日まで「高松鳥獣猟区(秋田県)は毎年10月15日から翌年2月15日まで」)	10月1日から翌年1月31日まで (放鳥獣猟区においては, 10月1日から翌年2月末日まで)
タヌキ, キツネ, テン(ツシマテンを除く), オスイタチ, アナグマ, シカ	12月1日から翌年1月31日まで	11月15日から翌年1月15日まで

(b)

狩 猟 鳥 獣 の 種 類	1 日 の 制 限 羽 数 又 は 頭 数	
ヤマドキジ, コウライキジ(コシジロヤマドリを除く), キジ, コウライキジ	合計して	2羽
ウズラ#		5羽
エゾライチョウ		2羽
コジュケイ		5羽
マガモ, カルガモ, コガモ, ヨシガモ, ヒドリガモ, オナガガモ, ハシビロガモ, ホシハジロ, キンクロハジロ, スズガモ, クロガモ	合計して5羽 (網を使用する場合にあっては, 狩猟期間ごとに200羽)	
バン		3羽
ヤマシギ(アマミヤマシギを除く), タシギ	合計して	5羽
キジバト		10羽
シカ		1頭

# 円山公園周辺野鳥目録

山田 甚一  
(会員・寄稿)

大正10年に北海道第一号の天然記念物に指定された円山の森(通称88ヶ所)、北海道神宮境内、同公園、大倉山・三角山周辺の森林に、川、池ありの自然環境に四季を通じて飛来する野鳥の目録を、私の未熟な記録と、円山動物園科学館金田寿夫館長のご協力を得まして発表さ

せていただきました。

未確認のものも多数あると思いますが、これをたたき台に、より充実出来ればと願ってやみません。

今回の目録は32科112種になりました。なお、初確認年とは、私が探索を始めた年を基準にした年度です。

科名	初確認年	科名	初確認年	科名	初確認年
●サギ科		ツツドリ	S. 61	キレンジャク	S. 61
アオサギ	H. 2	ジュウイチ	H. 4	ヒレンジャク	"
ゴイサギ	S. 60	●フクロウ科		●カワガラス科	
●ガンカモ科		コノハズク	H. 2	カワガラス	H. 1
オオハクチョウ	H. 5	フクロウ	S. 63	●ミソサザイ科	
マガモ	S. 62	●ヨタカ科		ミソサザイ	S. 63
カルガモ	S. 63	ヨタカ	H. 3	●ヒタキ科	
コガモ	"	●アマツバメ科		コマドリ	H. 2
トモエガモ	H. 5	ハリオアマツバメ	S. 62	コルリ	S. 61
オシドリ	S. 63	ヒメアマツバメ	H. 1	ルリビタキ	S. 63
オナガガモ	H. 5	アマツバメ	S. 63	マミジロ	H. 3
ハシビロガモ	S. 62	●カワセミ科		トラツグミ	S. 61
●ワシタカ科		アカシヨウビン	S. 61	クロツグミ	"
トビ	S. 62	カワセミ	S. 62	アカハラ	"
ハイタカ	S. 63	●キツツキ科		ノビタキ	S. 62
ツミ	"	ヤマゲラ	S. 61	シロハラ	S. 61
ノスリ	H. 1	クマゲラ	H. 4	マミチャジナイ	"
チュウヒ	S. 63	アカゲラ	S. 61	ツグミ	"
クマタカ	S. 60	オオアカゲラ	S. 62	ノゴマ	"
オオワシ	H. 6	コゲラ	S. 61	ヤブサメ	"
●ハヤブサ科		コアカゲラ	H. 4	ウグイス	"
ハヤブサ	S. 61	●ツバメ科		エゾセンニュウ	S. 62
チゴハヤブサ	H. 2	ショウドウツバメ	S. 63	メボソムシクイ	S. 61
チョウゲンボウ	S. 63	イワツバメ	"	コメボソムシクイ	S. 63
●ライチョウ科		●セキレイ科		センダイムシクイ	S. 61
エゾライチョウ	H. 6	ハクセキレイ	S. 61	ククイタダキ	S. 63
●キジ科		キセキレイ	S. 62	エゾムシクイ	"
コウライキジ	H. 1	セグロセキレイ	H. 1	キビタキ	S. 61
●カモメ科		ビンズイ	H. 4	オオルリ	"
カモメ	H. 3	●ヒヨドリ科		コサメビタキ	H. 1
●ハト科		ヒヨドリ	S. 55	エゾビタキ	H. 4
キジバト	S. 55	●モズ科		●エナガ科	
アオバト	"	モズ	S. 61	シマエナガ	S. 62
●ホトトギス科		アカモズ	S. 63	●シジュウカラ科	
カッコウ	S. 62	●レンジャク科		ハシブトガラ	S. 55

コガラ	S. 63	カシラダカ	S. 62	ウソ	S. 61
ヒガラ	S. 55	アオジ	S. 61	イカル	〃
ヤマガラ	〃	クロジ	H. 1	シメ	〃
シジュウカラ	〃	●アトリ科		ナキイスカ	H. 3
●ゴジュウカラ科		アトリ	S. 61	●ハタオドリ科	
ゴジュウカラ	S. 55	カワラヒワ	〃	スズメ	S. 55
●キバシリ科		マヒワ	〃	●ムクドリ科	
キバシリ	S. 63	ベニヒワ	S. 62	コムドリ	S. 62
●メジロ科		コベニヒワ	〃	ムクドリ	S. 61
メジロ	S. 62	ハギマシコ	S. 61	●カラス科	
●ホオジロ科		ギンザンマシコ	H. 3	カケス	S. 61
ホオジロ	S. 61	イスカ	S. 61	ハシボソガラス	S. 55
ホオアカ	S. 62	ベニマシコ	H. 4	ハシブトガラス	〃

〒064 札幌市中央2条西26丁目1-12



さすが！  
ウトナイ湖探鳥会

6. 11. 13

森 茂 太

おかしい、どうしてこんなに寒いのだろう？…俺はインドネシアに暮らしているのにどうしてこんなに寒いだろう？寒さで目を覚ますと、すでに夜は明け、外は一面の銀世界！！そ、そうか！ここはサマリダ（東カリマンタン州都）ではなくサッポロなんだ！寝呆けた頭で記憶をたどると、昨夜、家内とウトナイ湖探鳥会へ行く約束をした（脅迫された）ことを思い出したのでした。今年4月、ボルネオの熱帯降雨林での2年間の勤務を終えて帰る早々、札幌に転勤。頭の中には今だに東南アジアの香がしみついていて朝目がさめると「ああ、そうか帰ってきたんだ」と思うことが時々あるのです。

北海道の美しい湖、山々。やっぱり日本はいい！とくに北海道はいい！札幌に赴任したとき千歳空港のすこし手前、ウトナイ湖上空を通過して下にみえる広々とした湿原、湖、水鳥の姿を飛行機の中から見たときの「そのうち行かねばなるまいな…」の予感が本物になってしまったのです。

「ここにホレ」ひょいとほとんど探しもせず立ててもらったプロミナの中に一羽のアメリカヒドリが完全無欠正真正銘本物のまざりけのない図鑑の絵と同じ姿ではないですか。…ウーンさすが北海道！さすが北海道野鳥愛護会！！ネーチャーセンターもさすがでした！役所が作るとこんなにうまくはできませんまい（役所に勤め

る私が保障します)。ボランティアの工夫に満ちた運営、温かみ。いろいろと大切にしなければならないものと出会えました。探鳥会に来られた皆さんどうも有難うございました。

〒062 札幌市豊平区羊ヶ丘 森林総研宿舍213-6

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、オジロワシ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、ヒシクイ、マガン、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、コガモ、マガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、カワアイサ、ユリカモメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 以上28種

〔参加者〕武沢和義・佐知子、工藤昌代、佐藤正秀、佐藤晃義、小川秀子、山田としえ、西川喜久世、森茂太・純子・林太郎、青田実、中島宏章、石戸俊介、西林諭、富田寿一、吉田司・行子、富川徹 以上19名。

〔担当幹事〕富川徹、富田寿一

### 小樽港探鳥会

7. 12. 11 渡 邊 智 子

前日は吹雪で今日を心配しておりましたがみごとに晴れ、うってつけの探鳥日和となりました。バードウォッチング一年生の私は、小樽港での探鳥は個人で少しづつ勉強はしていますが、会への参加は初めてです。12月5日・6日の吹雪の後の7日、個人で探鳥した北浜岸壁でケイマフリがとても近くで見れましたので、今回も吹雪の後です。期待する気持ちで出発を待っておりましたら梅木さんより「昨日、珍しいハイイロウミツバメが鳥獣保護員の富樫さんに保護された」と聞き、益々期待が膨

らみました。(この保護されたウミツバメは、「残念ながら落鳥し、後日小樽博物館へ」とのことでした。)

まず日和山灯台です。トドの声を背中から聞きながら探鳥が始まりました。愛護会のベテランの女性の方が私の横で、「あっウミスズメ、あっケイマフリ」と鳥をつぎつきスコープに入れていらっしゃいますが、私にはスコープの倍率を上げてはさっぱり。勉強不足を痛感致しました。そこを終え、バスの所まで降りてゆく途中でハギマシコの群れがいたとのこと。私はまだ見たことのない鳥でしたので、これも見られずに残念でした。

次は祝津漁港へ。バスを降りるなりハヤブサ。多くのカモメの他に、フワフワ、ひらひらなんでしょう。何と朝話に出ていた日本海側には大変珍しいハイイロウミツバメとのこと。ほんとうに変わった鳥でした。蝶の様にひらひら飛ぶかと思うと足を垂らして海面につけ、まるで海面を歩いている様にも見える動作をしたりもします。この様にしながら、小魚・エビ・軟体動物の幼生を取ることですが、英語名でGrey Fork-tail Petrel という所でPetrelとは、新約聖書マタイ伝第4章27に出て来る 聖人ペテロがキリストに従い海の上を歩いて渡ったことから来るとか。(全くの余談ですが、リストがピアノ曲、2つの伝説G157で「水の上を歩くパオロの聖フランシス」という難曲を作曲しています。興味のある方は聞かれてみて下さい。)船員や漁師の方は、コチョウと呼ぶハイイロウミツバメの一度見たら忘れられない飛び方をじっくり見られ、今回の探鳥会のハイライトとなりました。

その後 富井海岸へ移動し、雄は2段になった冠羽を持つ私の大好きなウミアイサの群れ、昼食場所の第3埠頭でのケイマフリ、残念ながら私には赤い足は見えませんでした。カワイイ パンダ目は見られ、4日前の復習が出来ました。

後半は北浜へ。ホオジロガモの大群、シノリの群れ、見たかった尾と顔に特徴のあるコオリガモの雄。彼は12月17・18・24日にも1羽で見られましたが、以前はもう少し多く見られたという話ですのに、少なくなっているのでしょうか。だとしたら残念です。

最後は貯木場に行き、スズガモの大群、恥しがり屋のマガモ、どっしりしたシロカモメを見れました。

先日の道新の「北の野生ノート」にもウミスズメなどは小さな雨翼をリズムカルに力強く羽ばたかせ、自由自在に潜行してゆく、水中飛翔と呼ばれる巧みな潜水をするので、人間の仕掛けた海中の透明な網が見えるのであろうか、と書かれてありましたが、やはり祝津漁港では漁船の網にウミスズメ・ウミガラス・ハシブトウミガラスなどが掛かって、その死体が捨ててあることもあるそうです。個人で探鳥していても釣糸が足や口に絡ったカモ

メなど痛々しい鳥が目につき、何とかならないものかと思えます。

あわただしい探鳥会に思われたのと、愛護会の方達とお話出来る時間がなかったのが残念でしたが、いつも親切にいろいろ教えて下さる幹事の方達のおかげで今回も楽しい一日を過ごさせて戴き、次回も楽しみに参加させて戴きたく思います。宜しくお願い致します。どうも有難うございました。

〒047 小樽市長橋3丁目8-7

[記録された鳥] アビ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、ウミウ、ヒメウ、スズガモ、シノリガモ、コオリガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、コガモ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、カモメ、ウミネコ、ケイマフリ、ウミスズメ、ハイイロウミツバメ、トビ、ハヤブサ、ドバト、ハクセキレイ、シジュウカラ、ハギマシコ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上31種

[参加者] 相木大嗣・孝子、伊藤聖子、伊藤恭子、泉真沙子、清水滋子、中井惺・日出子、井上公雄、上坂登、川端功治、小須田秀子、小堀煌治、小島マサヨ、栗林宏三、佐藤幸典、佐藤正秀、佐藤ひろみ、佐藤正孝、設楽泰正、白澤昌彦、杉田範男、中正弘子、浜塚恵美、服部光博、羽田恭子、樹川弘子、高橋茜、高橋泉、野表智恵子、富川徹、高柳国雄、トーマス・T・レイ、知花優・優太郎、永島良郎、松本六郎、三浦美重子、森純子、松本美智子、柳澤信雄、安田達行、安田啓子、山田良造、石橋和子、永島トキエ、中野高明、渡辺俊夫(他)

野鳥の会小樽支部15名 以上69名

[担当幹事] 中野高明、渡辺俊夫、白澤昌彦

## 創立25周年記念事業 7. 1. 22

### 藤の沢・白鳥園探鳥とスライド映写会

[記録された鳥] アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、シメ、ギンザンマシコ、スズメ、ミヤマカケス、ハシブトガラス 以上13種

[参加者] 野坂英三、竹内強、矢野玲子、富田寿一、久田伸一、野口正男、栗林宏三、道場優、五十嵐辰美、橋爪陽子、浜塚恵美、吉田司・行子、野表智恵子、犬飼弘、小堀煌治、森茂太・純子・林太郎、北林富子、元谷千鶴子、菅沼良三・郁子、黒田シヅ、中屋淳子、田中金作・礼子、小島マサヨ、大西裕子、長谷川稔、岡多トヨ子、志田博明・政子、溝井茂、渋谷信六・弘子、佐藤義則、設楽泰正、川端功治、西田都、小島初江、柳澤信雄、国本昌秀、佐藤勇、森田新一郎、竹中昭雄・悦子、宮田貞

子、白澤昌彦、山田良造、三枝肇・晴美、石橋孝継、山岸敬子、佐藤ひろみ、鹿島憬策・利子、道川富美子、戸津高保・以知子、武沢和義・佐知子、井上公雄、長尾隆、泉屋宜志・恵津子 以上66名

## 小澤広記さんを悼む

副会長 小堀 煌 治

小沢さんとの付き合いはかれこれ30年になる。はじめて会ったのは小沢さんが60代、僕は20代だから親子というより、おじいちゃんと孫ほどの年齢差だった。小沢さんはこんな若造を一人前に扱ってくれ色々な話してくれた。藤ノ沢を訪れると、まだ現役だった小沢さんが畑の手を休めて座り込み、鳥の話、山の話、昔の話が始まり、特に小沢さんが戦後、一生懸命だった農地解放運動などに話が及ぶと熱を帯び、そのうちに酒でも出てくると話は暗くなるまで続き、山にも行かず鳥も見ずに帰ったことも何度かあった。たまに一緒に山に入ることもあり、小沢さんは巣箱を覗くための梯子を肩に掛け颯爽と山道を歩き、僕はついて行くのがやっとで健脚ぶりに舌を巻いたものだ。その頃の藤ノ沢・小鳥の村は周辺に団地も無く、田畑や果樹園が健在で鳥の数も多く、巣箱にはカラ類、ムクドリ、コムクドリが競い合うように巣箱を利用していた。小沢さんのアイデアで、遅く渡って来るコムクドリの巣箱を確保するため、入り口にガムテープを貼り渡って来たのを見届けてはがしてやる、それほど鳥の数が多く文字どおり「小鳥の村」だった。

このような恵まれた環境の中で昭和31年に小鳥の村が誕生した。小鳥の村の目的は巣箱かけなどを通して、子供と野鳥との交流を深め子供たちに自然の素晴らしさを教えたこと、その運動の中で、小沢さんは中心的存在として積極的に活躍し、やがて「小鳥の村の村長さん」として皆に親しまれるようになった。巣箱かけやバードテーブルの設置は当時の日本では先駆的な運動だった。藤ノ沢小学校の父兄や道庁の協力を得ながら着々と成果を上げ、マスコミにも盛んに取り上げられるようになり、全国的にも有名な存在になった。北海道知事賞をはじめ、大臣賞も受賞するようになり小沢さん個人も総理大臣を受賞している。

藤ノ沢探鳥会では小沢さんがいつもユーモアを交えた独特の口調で野鳥保護、自然保護の夢を語り、聞く者を魅了し、それが楽しみで探鳥会に参加した「小沢さんファン」も少なからずいたはずだ。真摯な仏教徒の小沢さんの考え方は野鳥の聖域を作るのではなく、人間と野鳥が共生することだった。小沢さんはそれを亡くなるまで実践してきた。近年では白鳥園の裏を流れるオカバルシ川の改修工事で、開発局と何度も交渉し工事を変更させ、

ヤマセミとカワセミの営巣地を見事に守った。

エネルギーだった小沢さんも80才を過ぎてから病院のお世話になるようになり、入院後は足が弱くなり外出もままならず家に籠もるようになった。たまに訪れると、相変わらず野鳥の事、自然の事を熱っぽく語り、最後には「オレも体が動かないからなんも出来ないもなあ」と寂しそうだった。最後まで老人クラブや温泉巡りには興味を示さなかった小沢さん。毎日イスに座り遅々として進め野鳥保護のことなど思い焦燥の日々だったと思う、そんな小沢さんの手足になってあげられなかったことが心残りだが、発足時から幹事を務め、北海道野鳥愛護会のことを大切にしてくれた小沢さんの遺志をつぎ、少しでも自然保護、野鳥保護に役立つようことが出来れば、と思いを新たにしている。合掌



〔野幌森林公園〕

平成7年4月16日(日)

5月7日(日)

厳しい冬を生き抜いて来たアカゲラ、ヤマゲラ、エナガ等の巣造りの様子やアオジ、オオルリ、キビタキの囀り等、山野の鳥の観察にはベストの時期です。芽吹き前の枝木の見通しの良さは鳥を探すのにも絶好です。お天気に恵まれれば、更に楽しみが増えるでしょう。

集合＝9時大沢口駐車場入口

交通＝新さっぽろから夕鉄バス(文京台線)大沢公園入口下車徒歩5分

〔宮島沼探鳥会〕平成7年4月23日(日)

3～4万羽とも言われる本州各地で冬を過ごしたマガンの全てがこの宮島沼に集まり、北への旅立ちの日を待っています。ハクガン、カリガネ、シジュウカラガン等の稀少種の混入も春に多く見られます。

集合＝宮島沼畔 大富会館前午前10時、午前中解散予定  
〔千歳川周辺一泊早朝探鳥会〕

平成7年5月13日～14日(土～日)

支笏湖畔の宿に鳥仲間が集り鳥の話題も楽しみです。翌早朝4時千歳川流域へ向かいます。ヤマセミ、カワセミは此処の常連、アカショウビンに出会えたら幸運です。カワガラス、キセキレイ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、ベニマシコ等、約50種程が記録されます。

日時＝平成7年5月13日(土)19時から交流会

14日午前4時から探鳥開始、午前中解散予定

場所＝〔支笏湖ユースホステル〕

千歳市支笏湖温泉番外地 0123-25-2311

会費＝4000円程度 宿泊料(夕食付)朝食持参

集合＝19時支笏湖ユースホテル又は18時JR千歳駅  
待合室（マイクロバスが迎えに来ます。）  
申込＝4月と5月の野幌探鳥会の時、電話の場合は  
5月12日迄に011-563-5158（夜6時～8時受付）  
白沢さん宅へ

〔鶴川探鳥会〕平成7年5月21日（日）

鶴川の干潟とその周辺で主にシギチを観察します。ソ  
リハシシギ、チュウシャクシギ、コチドリ等の他コサギ、  
チュウヒ等何が飛び出すかが楽しみ、長靴が無難です。

〔平和の滝夜の探鳥会〕平成7年6月3日（土）

オオルリ、キビタキの音が夕暮れに消え、やがてヤマシ  
ギ、ヨタカが夜空に舞い始め、けたたましくヨタカ、神  
秘的なコノハズクの声が闇夜から聞こえて来ます。冷え  
ますので温かい服装をお忘れなく。

集合＝平和の滝駐車場18時30分

交通＝地下鉄琴似駅より市営バス（西42西野平和線）

平和の滝入口（終点）下車徒歩約20分

〔植苗・ウトナイ〕平成7年6月11日（日）

ホオジロ、センダイムシクイ、キビタキの囀りの中を  
草原へ向かいます。懸命なコヨシキリの囀りに迎えられ、  
鮮やかな色調のシマアオジ、ノビタキ、そしてノゴマに出  
会えたら幸せ、コブハクチョウの親子連れも見たいもの  
集合＝JR千歳線 植苗駅前 9時10分

〔東米里〕平成7年6月18日（日）

広い荒空地に草原の鳥が多く見られましたが、急速に  
土地の利用が進み生息環境が悪化しています。そんな中  
にもアカモズ、モズ、オオジシギ、コヨシキリ、ノビタキ、  
カッコウ等の頑張る姿を見届けたいものです。

集合＝東米里小学校正門前 8時30分

交通＝地下鉄菊水駅より市営バス（白7米里線）

東米里小学校前下車

〔福移〕平成7年7月2日（日）

河川敷の改修で一時は野鳥の生息も危ぶまれましたが、  
草地や河畔林にノビタキ、オオジュリン、コヨシキリ、  
ベニマシコ、モズ、昨年はノゴマも、川辺にはアオサギ、  
カワセミ、イソシギ、対岸にはショウドウツバメのコロ  
ニーも見られ、牧草の刈り後でウズラを観察される事も

集合＝市営バス福移入口停留所横 8時40分

交通＝地下鉄東豊線環状通東駅より、市営バス北札幌線  
福移入口下車

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

平成7年4月9日（日） 5月28日（日）

6月25日（日） 7月9日（日）

集合＝大沢口駐車場入口 9時

★いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。

★交通機関を利用される方は、各自でお確かめ下さい。

★昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。

★探鳥会の問い合わせは（011）857-6364 柳澤 宅



◆平成6年度

定時総会開催案内

平成6年度総会を下記の通り  
開催いたします。会員各位のご  
参集をお願いいたします。

日 時・平成7年4月8日  
（土）午後2時、

札幌市民会館6号会議室。

主たる議題

- (1) 平成6年度報告。(2) 会計。(3) 障害保険の更新 他。
- (4) 平成7年度事業計画(案)。(5) 同年度予算(案)

◆北海道野鳥愛護会創立25周年記念講演会の開催案内

日 時・平成7年5月20日（土）午後1時30分、札幌  
女性センター（中央区大通り西19丁目）会議室。

講 師 正富 宏之 氏 「タンチョウの話」

会 費 500円。多数のご参加をお待ちしております。

◆平成7年度野鳥写真展開催案内

期 間・5月8日（火）～5月27日まで。たくぎん本  
店（中央区大通り西3丁目）地下のキャッシュコーナー。

なお、作品出展ご希望の方には規定サイズの写真を  
下記にお送り下さい。（だより第98号ご参照のこと）

〒003 札幌市白石区栄通り8丁目3-11

柳澤信雄（会長）宅 Tel (011)851-6364

◆会員名簿の作成について

愛護会25周年記念事業の一つとして平成7年版の会  
員名簿の作成を計画中です。移転による住所、〒ナン  
バーの変更、電話番号の不記載の希望などがあります  
会員は、必ず官製ハガキで下記にご連絡下さい。

〒065 札幌市東区北16条東3丁目

ロジェ北16条303号 霜村耕一氏宅。

◆お詫びと訂正

野鳥だより第98号「誌上写真展」のうち、新城久  
氏の「コサギ」が「ヨサギ」と誤表示されました。  
慎んでお詫びと訂正をさせていただきます。

（広報・森田）

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 2,000円（会計年度4月より） 郵便振替 02710-5-18287

☎060 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011)251-5465